西東京市市民協働推進センター
平成 21（2009）年度第 4 回　運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成 21 年 9 月 15 日（火）　午後 7 時～9 時
■開催会場：イングビル 3 階　第 1 会議室
■出席委員：有賀委員、熊田委員、小林委員、坂口委員、中曽根委員、橋本委員、原委員、
宮﨑委員、柳澤委員、山辺委員、吉田委員
＜以上 11 名、五十音順＞
■事 務 局：鈴木センター長、丸木地域福祉課長、中澤主事、片山

○委員長より開会のあいさつの後、協議に入る。

１．報 告 事 項

１．西東京市市民協働推進センター業務報告について

委員長：月次報告をお願いしたい。
事務局：7 月はひまわりプロジェクトにかなりの動きがあった。チラシ、市報、口コミでＰＲしたが、約 4000 名の親子連れが迷路に参加した。今回は学童クラブ、児童館に配布したチラシを見ての参加が多くあったようだ。迷路クリア賞を作り配布を行ったところ、子どもたちが競って参加をした。迷路を作ったことが良かった。
企業懇談会、市民活動ネットワークの１回目を開催した。市民活動ネットワークは約 20 団体が参加し活発な意見が交わされた。2 時間の中で 30 人弱が 1 人 1 分間、自己紹介するという形を取ったが時間が足りなかった。これを反省点として次回に生かしたい。
8 月もひまわりプロジェクトで動きがあった。子育てママのトークサロンとトークサロン環境編を開催した。10 名ほどの参加があり環境や東大農場について意見交換をした。
相談状況については、8 月は相談件数が少なくなっているが、9 月に入って少し増えている。
委員長：続いて、企業懇談会、トークサロン、市民シンポジウムについて説明をお願いしたい。
事務局：8 月 14 日にアスタセンターコートで市民シンポジウムを開催した。多くの方に話を聞いていただけた。この模様はＦＭ西東京に録音していただき、ラジオ放送があった。ポッドキャストでインターネットで聴くことができるようになっている。
また、ママのトークサロンでは 10 名ほどの子育て中のママが育児の困りごとについて話した。
トークサロン環境編も 10 名の参加者があった。
委　員：子育てママのトークサロンは、熱心かつ和やかな雰囲気だった。情報が欲しいという声が多かった。
委　員：トークサロン環境編には、東大農場に関連する市民活動を実践している人が参加していた。
委　員：市民シンポジウムには、たくさんの人が来ていたが知り合いの方も多かった。他市で市民活動を活性化するポジションにいる方が「自分も悩んでいる」と質問したほか、他の地域の青年会議所の方が参加していた。アスタで試みたことは正解だったと思う。

２．10 月以降の西東京市市民協働推進センターの事業について

委員長：　10 月以降の事業について説明していただきたい。
事務局：10 月は市民活動・コミュニティビジネス講座がある。NPO 法人のための会計講座を 11 月 6 日に開催し、NPO 法人の会計を税理士に説明してもらう。11 月は第 2 回市民活動ネットワークも開催される。
委員長：質問があればお願いしたい。
委　員：コミュニティビジネスの講師はどのように選んだのか。
事務局：運営委員が所属されている立川の多摩 CB ネットワークを通じ、竹内千寿恵氏と知り合いお願いした。

２．審　議　事　項

１．２００９年度第３回西東京市市民協働推進センター運営委員会会議録(未定稿)について

○質問、修正点はなく、未定稿を確定稿とした。

３．協　議　事　項

１．西東京市市民協働推進センターの事業について

委員長：市民協働推進センターの事業と次年度の予算についての協議説明に移る。センター事業の説明をしていただきたい。

事務局：第１回の企業懇談会では、企業の経営規模（大企業と中小企業）による違いを超えた企業の参加があった。懇談会を行った結果、大企業は本業と切り離してのボランティア的な活動を主としており、人材を出して地域に貢献していることがわかった。それに対して中小企業は、本業抜きのボランティアでは動きにくく、地域のために何かする際にも本業と絡まないと参加しにくいという現状があることが分かった。

今回、「企業」ということでひとくくりにして懇談会を実施したが、今後はその形でやっていくことは難しいと思う。別の集まりを開催する必要を感じる。

中小企業の集まりに「みなさん何かやりませんか」と呼びかけたが難しかった。事務局から「こういうまちおこしをしませんか」と具体的なプランを出す必要がある。次回以降を開催するにあたり意見をいただきたい。

委員長：企業懇談会を今と違う形で行うのか。

大枠でなく、それぞれの立ち位置で分けて懇談会を開けばよいのではないか。

委　員：中小企業とは商店会のようなものか.

事務局：前回の参加を見ると、中小企業といっても、社員数名から 200 名超の企業もあった。

委員長：企業懇談会は大企業をメーンにした会と中小企業をメーンにした会と別にするのか。同じ日に別の場所で行い、合同の交流を設けようというのか。あまり分けないで、大企業、中小企業を超えてつながりを持つことが、協働推進では大切とも思う。

事務局：大企業と中小企業では、考え方に差がある。大企業は本業とは切り離して、ボランティア活動として地域貢献していることにプライドを持っているところもある。中小企業は本業と絡まないと会議にも出にくい。別々に進みつつ、年に数回同じテーブルに着き、意見交換するようにしたい。

委　員：参加者の一員として印象が違う。大企業、中小企業で分けるのではなく、どこをターゲットとして活動しているかがポイントだと思う。例えば大企業は日本全国を対象としてボランティア活動をしており、環境問題に配慮した画用紙などを販売する会社は、東伏見を拠点として世界をターゲットにしている。また、ある不動産会社は、西東京にありつつ多摩全体を相手にしており、アニメ制作会社は、日本全体を相手にしつつ西東京でやっている。協働センターは西東京をターゲットとしていることを考え、ターゲットの差で分けるとよいのではないか。

委　員：企業はメリットがないと具体的なアクションに結びつかない。また、各企業には CSR のテーマがあるので、テーマに合わないものを出しても駄目である。

企業がメリットを感じる提案を出す必要がある。地域の情報が欲しいので、名刺交換会など楽しみの部分でネットワークを立ち上げるのも必要。仙台のように中間支援組織が企業を巻き込むプログラムを立ち上げているところを研究してはどうか。

懇談会のテーブルについてくれることだけを目的にしてはいけない。

センター長がメール配信しているような地域情報を企業・NPO も欲している。

たえず御用聞きのような姿勢で企業と付き合っていき、センターと企業の関係を築き、「何ができるのかという点について」企業のニーズを引き出していけばよい。

委員長：こんなに早い段階で分けてしまってよいのだろうか。

委　員：分けないと来なくなる人も出ると思う。

委員長：大企業、中小企業の立場を超えて同じ土壌で地域課題にもう少し取り組み、考えるべきだと思う。もう

少し交流を図るとともに、一緒にやることを考えてみてはどうか。
事務局：すでに、現状のままでは、次回の参加は難しいという企業もある。
委員長：何か具体的な実施方法についての意見をお願いしたい。
委　員：まずセンターと企業がつながることに時間をかけたほうがよいと思う。
委員長：他の地域の先進的な事例を見るのもよい。
委　員：このような企業との懇談会を成功させているところを研究するとよい。
委　員：企業と市民協働推進センターとのパイプを太くし、企業ごとの地域に対する具体的なニーズを探る必要がある。懇談会に集まった企業の状況を把握し、企業のニーズに応じたコーディネートを行うことで、初めてコーディネーターとしての機能を発揮することができる。
事務局：次回以降は、前回に参加した企業以外にも、例えば JC(青年会議所)の方などにも参加の呼びかけを検討したい。
委　員：あそこに行けば情報が入ると企業が思えば、顔つなぎになるかもしれない。
委　員：西東京ブランドのグッズを作るという意見もあったが、しばらくの間は情報交換でよいと思う。
事務局：企業懇談会に出たことで西東京の異業種の方に出会えてよかった、という声もあった。
事務局：居酒屋チェーンを展開している企業が、仕込みをしている日中に店を会議室として使ってもよいと言ってくれた。また、不動産会社が、自分のところで出している広報誌に地域の活動や NPO を紹介することも考えられると発言された。
委　員：企業が異業種と出会うだけでなく、市民協働推進センターが、企業と市民を結ぶ場となるとよい。
委　員：企業は待っていても来ない。市民協働推進センターが積極的に働きかけるとよい。
委員長：やり方を工夫し、センターと企業の関係を強くしてほしい。次の議題に移る。
事務局：市民の集い（仮称 NPO 祭り）を 2010 年 3 月に市民協働推進センターの 1 年目の総決算として行いたい。11 月ごろから実行委員会形式で進めたいと考えている。
事務局：市民の集いでは、市民活動団体が一堂に会し、自分たちの活動を市民に向けて広報するとともに、市民活動の必要性を市民に伝え、活動に加わりたい人を増やすことを狙いたい。
委員長：実行委員会で詳細については決まっていくと思うが、ボランティア活動の部分について、ボランティア・市民活動センターとの関係をどのように考えているのか意見をいただきたい。
事務局：ボランティア・市民活動センターでは、ボランティアのつどいを毎年実行委員会形式で行っている。内容はボランティア活動に特化している。市民の集いは NPO・市民活動に焦点を当てて内容がダブらないようにしている。うまく連携を取りたいが、まだ具体的には決まっていない。
委員長：祭りというからには手をつなぐ必要がある。相互乗り入れもよいのでは。次年度以降検討していただきたい。
委　員：小平市で同じようなイベントがある。大学、小平社協、市民活動ネットワークの共催で、市民活動に興味を持つ人々の勉強会などを行う。このような学びの要素があってもよいと思う。
委　員：NPO・市民活動団体を集めるのか、それとも関心はあるけれどまだ団体等に加わっていない市民を集めるのかがはっきりしない。どちらになるかで広報の仕方が変わる。
事務局：NPO がどのくらい集まってくれるかわからないが、多くの NPO に参加してほしいという思いはある。ただし、NPO だけ集まっても市民が集まらなければ仕方ない。ここは今後の検討課題である。
委員長：実行委員会のメンバー構成により方向性が決まるのではないか。
事務局：個人的には協働センターと NPO がつながるほうを重視したい。
事務局：呼びかける団体はまだ決まっていない。市民シンポジウムに参加した団体とセンターの登録団体、またセンターにかかわりのある団体に声をかけようと思う。センターと団体がつながる一歩としたい。
事務局：今回は初年度なので、こちらである程度やることを考えて呼び掛ける予定である。
委　員：10 月 25 日にアースデイを「親子で考えよう地球温暖化」のテーマで実施する。例年 30 団体ほどが参加し、継続している。東大農場と関連して開催すると集客(7000 人)であったが、エコプラザ開催だと集客が難しく、小中学校に協力を願って 2000 人を目標にしている。活動を展示しても「核」になるテーマがないと成功しないのではないかと思う。
事務局：ひまわり畑の公開の際にも「迷路」という仕掛けが人を呼んだ。過去のアースデイで 7000 人もの集客を得ることができたのは、「東大農場」という場所自体もよかったのか。
委　員：東大の収穫祭が大きな魅力であった。
委員長：実行委員会で独創的な企画を立て、人を集めることが大切だと思う。

２、　２０１０年度西東京市市民協働推進センターの予算及び事業について

委員長：来年度の市民協働推進センターの予算の協議に移る。

事務局：今年度の最初の運営委員会開催時に示した計画をもとに、来年度新規に取り組む事業を書き加えてある。表の見方は、「経過」の欄に新規とあるもの（例えば市民ファンド事業）は、2010 年度新規の取り組みである。現在未実施のものは「これまでの実績の課題と評価」の欄に未実施と記すとともに、実施予定日を記してある。評価については、評価シートに基づいた職員全員での検討結果ではなく、担当職員の考えた実績の課題と評価を示してある。

事務局：今年度の市民協働推進センターの事業計画は、ボランティア・市民活動センターで培ったものを基礎としている。2010 年度の取り組みについても大半が継続であるため、今年と大きく変わることはない。事業計画を説明し、委員の皆様の意見をもとに来年度の予算を検討したい。

市民活動に関する相談事業については、団体運営に関する相談では職員のスキルを上げることが課題となっている。研修で全体のスキルをあげていく必要があると感じている。

市民ファンド事業については、今年度は調査期間ととらえている。現時点での調査は不十分ではあるが、来年度はとっかかりまではやりたいと考えている。

市民シンポジウムの１回目をアスタで行い、いろいろな団体の交流の場になった。

機関紙を発行しているが、独自のホームページはない。

地域の情報提供者の確保が重要と考えている。まだ具体的な取り組みには至っていないが、協働センターに多くの市民が集うことにより、情報は集まっている。難しい部分もあるが具体化を図りたい。

市民活動ネットワークについては、現在 NPO は少ないが市民活動団体が集っている。2 回目は、ひとつの団体の活動紹介に参加者から意見を出してもらう場になった。

ボランティア･市民活動センターのミッションには、「つなげる」「いかす」「うみだす」が掲げられている。今年度の市民協働推進センターの事業計画は、ボランティア・市民活動センターで培ったものを基礎としていることから、このことを市民協働センターの事業に当てはめて考えると、今年は「つなげる」の部分が中心となっているように感じる。今後は「つなげる」ことに終始するのではなく、団体の力を生かし、協働による新たなものを生み出していきたい。

市民活動ネットワークで個々の団体がどのようなコラボができるか見守りたい。

市民活動ネットワークにおいて、子育て団体からは夜間でなく日中の開催の希望があったので、今後実施を検討する。

11 月のトークサロンには委員長にご協力いただき大学生との意見交換を考えている。

機材レンタルでは、印刷機・コピー・紙折り機の利用は多いが、ラミネーターは利用されていない。利用の PR を行っていく。

助成金の情報提供はしているが、書類作成・プレゼンテーションのノウハウ提供には至っていない。今後の課題である。

人材バンクについて、本年度は調査期間であるが、地域の人材をいかすためにより良い形をつくっていきたい。近隣を含め、他地区の情報を調査中。

委　員：市民ファンドはしっかりしたスキームが必要だ。成功しているところと失敗しているところがある。人口 19 万人の西東京市での市民ファンドをやるには拙速を避けたほうがよい。

西東京市に住んでいる大学生と西東京市に通ってくる大学生がいる。地元が西東京市の学生が地域貢献できる仕組みを考えるとよい。

市民活動ネットワークも２回目だが名前に NPO と入っているほうが、NPO の人は来やすいと思う。

協働推進というからには、もう少し行政の姿が見えた方がよい。協働講座以外は受託した社協が取り組む市民活動支援であって、もっと行政が出てくる企画があってよいと思う。

事務局：社協と行政はいろいろな場面で一緒に仕事をしている。高齢者の見守りや成年後見制度など、考えを調整しながらやっている。協働推進センターの運営自体が行政と社協の協働である。

委　員：トークサロンで、協働事例の報告を行うとよいのではないか。市と市民団体の協働の例で「花の会」や市のみどり公園課の担当者に話をしていただくなどしてはどうか。

委　員：センターの開所時間を縮小するということについては再考してはどうか。

事務局：夜の利用者が少ないから短縮すると考える前に、夜のニーズがないのか検証しなければならない。

半年の実績で夜の利用者が少ないから、すぐ夜を縮小ということはしたくない。夜のトークサロンや運営委員会、市民活動ネットワークも夜の実績と言ってよい。それらを加味してなお夜の利用が少ないの

であれば検討が必要になるかもしれない。
委　員：女性職員が１人になる時間があることも気になる。構造的に逃げることが困難なので、考えてほしい。
委員長：働く環境の課題は、市と相談していく必要がある。
事務局：常時２人体制という市との取り決めであるが、事業の関係によりそのようにいかない状況もある。
委　員：事業計画を見て、盛りだくさんすぎるのではないかと感じた。中途半端になる恐れはないのか。方向性を絞ることも必要ではないか。
事務局　協働センターを受託する際に、実施事項として示してあるので、どれかをやめることはできない。
委　員：これまでやってきた中で事業対マンパワーを見直して、これでは難しいと数値化したものを市に提出してはどうか。
委　員：インターネットをうまく使えないか。
事務局：ブログを作りたいと思っている。広告の表示されないブログサービスを探している。
委員長：東大農場のひまわりプロジェクトなど当初契約以外のものも多い。
市と意見交換できる機会を持った方がよい。
委　員：11 月に予算をあげるなら 10 月にやってほしい。
委員長：運営委員会に来ていただく形がよいのではないか。
次回、今日できなかった「協働について」を踏まえて、市と協働推進センターのあり方を意見交換する。調整をお願いしたい。センターの考える協働、運営委員の考える協働、市の考える協働とつき合わせて協働を考える必要がある。
事務局：候補日が１日のみなので 10 月定例会において先方の都合が悪い場合には 11 月でもよいか。
委員長：よい。
委　員：来ていただくのは、担当者のみか。
事務局：担当者と課長に来ていただくよう依頼する。
委員長：市と意見交換をする中で、必要に応じ事業計画の見直しを検討した方がよい。

４．そ　の　他

１．次回運営委員会日程について

委員長：次回は 10 月 20 日（火）の 19 時からイングビル第２会議室で開催する。
事務局：市と調整した結果を事前に報告する。

２．その他

（1）協働について

委員長：本日話し合う予定だった「協働について」は、時間がなくなってしまったため、次回の運営委員会に持ち越しとする。本日お渡しした資料の読み込みをお願いしたい。

以上をもって散会した。